令和7年

子泣き相撲

最教寺奥の院で、2月2日の節分の日に「令和7年子泣き相撲」が開催されました。

先に泣いたほうが勝ちという珍しい行事に参加しようと、受付には早朝から長蛇の列ができていました。

市内はもとより県内外から1歳前後の赤ちゃん延べ130人が参加し、熱い戦いが繰り広げられました。

三重塔の前に特別に設置された土俵で、はちまきを締め、はっぴと化粧まわしに身を包んだ赤ちゃんが向かい合います。

行司の「泣いたが勝ちよ、はっけよい」の合図で取組が始まり、すぐに泣き始める赤ちゃんや、行司を不思議そうに見つめて一向に泣かない赤ちゃんなど、さまざまな取組に会場は笑いや歓声に包まれました。この日ばかりは、赤ちゃんの大きな泣き声にも家族は大喜び。赤ちゃんたちの熱戦を逃すまいと、シャッターチャンスをうかがう家族やカメラマンの姿も見られました。

また、無料でぜんざいなども振る舞われ、参加者や応援に駆けつけた皆さんの冷えた体を温めました。